

第17回通常総会にあたって

代表理事 熊谷 道夫



本日は、なにかとお忙しいところ、総会にご参集いただき誠にありがとうございます。

また、ご多忙のところ激励に駆けつけて頂いた、来賓の皆さまに、日頃から御理解と御支援をいただき心から感謝申し上げます。

私、五月中旬に地域との繋がりで石川県能登地方に一泊の移動研修に参加してきました。

全沢には若い頃行った事がありましたが、能登は初めてです。

びびりしたのは、すっかり観光地化され、外国人が一杯の状態、圧倒されました。

「素朴さ」は無くなりました。

ある市場では、三百円の紙コップの「コーヒ」を出す店に入り、店主のひとり暮らしの奥さんと世間話をしながら時間を過ごしました。

観光客の特徴は、外国人は夫婦連れで、日本人は引率付きの団体客のパターンに変化はないとの事でした。曜日的には、平日にお客が増えているとの話でした。

道中、列車の中で、JRの旅行誌「トラベール」に、作家の沢木耕太郎氏が俳句評論を盛り込んだエッセイが掲載

されてきました。

花吹雪 ごめんなすつて 急ぎ旅

懐かしい言葉が出てきて、昔の世界にきたような感じがしました。

さて、当会設立二十周年を過ぎて、福祉共生社会、超高齢社会と言われる状況の中で、当会の活動が名誉ある地位を占められるよう、努力したいと思っています。

町村高齢化率、初の三十パーセント超』六十五歳以上の方が増えていきます。宮城県の高齢者人口調査の結果では、二十一市町村を合計した高齢化率が初めて三十パーセントを超えたといふ。

「人生百年時代」と唱える人も多くなりました。

大きな話になりますが、「人間の自立とは何か」を考えながら、日常生活の各場面を過したいと思えます。

社会福祉をめぐる情勢は、厳しい環境下にあります。常態に福祉の動向を意識して取り組むべき方向を見失うことのないように活動を進めてまいります。楽しく人生を過し、日々生きがいを持つて過ごすために、仲間を増やし、支援者を増やし、活動しましょう。

第17回通常総会並びに基調講演会 が開催されました

2018年5月29日仙台市生涯学習支援センターに於いて、今回は、2018年度、当会事業計画の課題でもある「地域支え合い」活動として、新体制「地域支え合い推進委員会」での支え合いの仕組みづくりや方向性また、各地域で

の連携の方法など今後の運営のヒントなどを学び、会員誰もが活動に参加できる指針となるよう、宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議運営委員会委員長大坂純氏を講師に迎えての基調講演と第17回通常総会の2部構成で開催されました。

第一部 基調講演会模様

『自分らしく暮らし続けるための地域づくり』
～～ 自然な支え合いを続けるため ～～

講師 大坂 純 氏

講演は「今、少子高齢化やこども・高齢者の貧困が社会問題になっていますが、社会的孤立（どことも誰とも繋がっていない人）もまた見過ごすことができない問題であり、孤独死での死亡から発見までの日数は男性は女性の3倍もかかっています」の導入から始まりました。



プロフィール

- ・東北こども福祉専門学院副学院長
- ・宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議運営委員会委員長
- ・仙台市障害者自立支援協議会会長
- * 地域リハビリテーションの立場から地域における住民主体の支え合い活動を研究

『自分らしく、地域で暮らす』

2025年の介護保険をとりまく状況は高齢者の増加（65歳以上の人口約30パーセント）・認知症高齢者（65歳高齢者の約20パーセント）の増加・単独世帯や夫婦のみ世帯の増加など日本の人口ピラミッドの変化に負担がどんどん重くなる。

そこにどうやって対処するかが日常生活支援総合事業の基本的考え方である。

団塊の世代が75歳以上となる2025年をめどに重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築が進められている。

『地域支え合いとは！！』

介護保険以前は、わずかな「介護サービス」しか無かった。しかし、「本人と支え合う多様なつながり」があった。気がつけば「制度・サービス」は整ったけれど、今の本人の暮らしは・・・

地域包括ケアとは何か、地域で行われている自然な支

え合いに意味づけ・意識化してケアと手を組み、その人らしく暮らし続けることを支えること・・・

住民も専門職もみんなで支え合う地域の構築である。

地域づくりのための生活支援体制整備事業における基本は、①できないもの探しからできているもの探しへ180度の発想の転換、②暮らしの楽しさや楽しみを大切にする、③意識化（※1）と意味づけ（※2）を行うこと。

まとめ：

- その1 発想の大転換
～サービスづくりではなく地域づくりへ～
- その2 社会資源は開発より発見
- その3 社会参加による介護予防へ

地域づくりの木が大きな木に成長できるように、つながりを切らないよう、つなぐ工夫の大切さを地域の実例を踏まえ話されました。

※1意識化とは、人は誰かと何処かでつながっているということ、

※2意味づけとは、暮らしの中での関わりから生まれる知恵と工夫、楽しみ、役割や効果などを意識化の中に発見すること。

講演を聞いて、閉じこもりがちな男性高齢者が、人とかかわる（支援する）ことによって、出来なかつたリハビリが出来、生きがい（役割）を見つけ生活を楽しんでいると

の事、かわりによって生まれる互助のエネルギー（可能性）のすばらしさを感じました。「明日は我が身」小さな一歩でも地域に踏み出す勇気を持つとうと思いました。

第二部 第17回通常総会模様

本間吉雄副代表理事の開会の辞に続き、前田泰子理事から出席者48名、委任状48名の報告があり、本総会の定足数充足の確認・成立が宣言された。続いて、戎野邦夫会員を議長に選任、議事録署名人に小菅文雄副代表理事・栗原節子常任理事が選任



され、熊谷道夫代表理事挨拶に続き、来賓の方々から次のような祝辞があり、当会の会員である衆議院議員岡本章子氏からのメッセージが紹介されました。



【来賓祝辞要旨】

◆地域包括ケアシステムの進化と推進を加速

高齢者の方々が今まで暮らしてきた家庭や地域の中で、自立と社会参加が保証され、皆で支え合いながら安心して暮らしていくことができる社会になるよう、介護と医療の専門者の多職種連携や地域の資源を活用した地域包括ケアシステムの充実・推進、認知症の方に優しい街づくりのための各種施策を推進します。

◆適時・適切な情報の提供

介護保険利用の方々に快適なサービスを利用して戴くために、施設の整備、サービスの質の向上、介護保険を利用される方々への適切な情報提供に力を入れていきます。

◆少子高齢化が進んだ大介護時代への対応

誰もが安心して地域で暮らし続けるためには、医療と介護サービスの切れ目なく提供される体制づくりと地域包括ケアシステムを支え、そこで働く人たちが安心してサービスを提供できる労働条件、職場環境の実現に取り組んでいます。

◆高齢化率が上がっても、高齢者人口が増えても一人ひとりが幸せであるように

高齢者の方々の支援をするため、様々なコーディネートしたり、マネジメントしたりしながら、高齢者が元気で活動できる地域づくり、健康を保ちながら生活するための介護予防、介護サービスの利用の

支援を行っています。高齢者一人とひりが幸せに生きていくことができるように、本当にその方が尊厳を保ちながらその人らしく生きていく事の視点を忘れずに、これからも皆様と連携し協働していきたいと考えています。

◆介護人材の育成、確保に向けて

高齢化率が高まって、介護を必要とする人は増えていますが、介護をしようとする人は増えていないのが現状です。私達は人材を育て、定着するよう頑張っていますが新しく創出して、生み出されてくることがとても大切です。

◆安心して暮らせる地域社会を築くために

日本は全人口1億2千7百万人に対し、高齢者人口3千4百万人を超え、4人に1人が高齢者となりました。今後益々増え続ける高齢者や認知症状態になられた方々、そして、ご家族を含め、たとえ認知症になっても安心して暮らせる地域社会を築くため、微力ながら地域社会に貢献していきたいと考えています。



休憩を挟んで議案の審議に移り、

①仲野紀夫専務理事から第1号議案2017年度事業報告、箕輪元三副代表理事から第2号議案2017年度決算報告、杉原正晃監事から第3号議案2017年度監査報告について提案され、第1号議案から第3号議案までの3議案について、一括審議の結果承認されました。

②次に仲野紀夫専務理事から第4号議案2018年度事業計画(案)、

③箕輪元三副代表理事から2018年度活動予算書

(案)が提案され審議の結果承認されました。

④続いて、第5号議案としてNPO法改正による「貸借対照表の公告」の義務化に伴う定款の改正について提案され、承認されました。

⑤また、役員改選について第6号議案が提案され、承認されました。

以上で全議案の審議を終え、戎野邦夫議長の解任挨拶の後、高野剛理事の閉会のことばで第17回通常総会滞りなく閉会しました。



今回の2部構成の総会について、次のような感想が寄せられています。

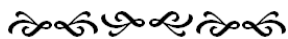
- ・初めての企画でしたが、大変良かった
- ・総会のイメージが新鮮に感じられました
- ・今の一万人市民委員会には、変化して伸びることがとても大切です。地域包括ケアを視野に入れた「地域支え合い推進委員会」の取り組みに期待しています
- ・これからもこのスタイルを続けて頂きたい
- ・来年の総会はどんな企画があるか楽しみです
- ・総会への期待感を久しぶりに持ちました
- ・押し付けにならない会員同士のお誘いの声掛けも大事ね



出席されました来賓は次の方々です

宮城県保健福祉部長寿社会政策課
仙台市健康福祉局保険高齢部介護保険課
日本労働組合総連合会宮城県連合会
仙台市地域包括支援センター連絡協議会
仙台市老人福祉施設協議会
NPO法人宮城県認知症グループホーム協議会

課長	諸星久美子氏
課長	中村喜陽氏
事務局長	大黒雅弘氏
会長	折腹実己子氏
会長	庄子清典氏
理事	伊藤あおい氏



これからの介護予防の姿



これからの介護予防の姿は高齢者自身を含めた住民が、サービスの受け手から暮らしと地域をつくる主体となり、「要介護予備群」の高齢者だけではなく、「全ての高齢者」を対象とした、機能訓練重視の福祉サービスの提供体制

だけではなく、高齢者の社会参加による住民同士の助け合いと居場所・つどいの場などの地域づくりを進める体制づくりへと「要介護状態にならない介護予防」から「地域で暮らし続けるための生活支援」を目指しています。

〜〜 ご存知ですか？ 〜〜 あなたの地域の福祉活動

若林区
若林地域

「さわやかサロン」から『絆サロン』へ 〜〜 あれから7年！ 新たなスタート 〜〜

若林社会福祉協議会支えあいわかばやしの交流サロン「さわやかサロン」は東日本大震災で被災され、みなし仮設等で避難生活をされていた方々の、出会い、交流の場として開催されたサロンです。

場所は若林区中央市民センター別棟で月1回第4木曜日、10時～12時まで、軽体操をしたり、薬剤師の「薬の話」を聞いたり、みんながカラオケで懐メロを歌って楽しんだり、お菓子を食べてお茶を飲みながら談笑をする和やかな会です。当初は30名位の会員がおりましたが、それぞれ仮設から災害復興住宅等に引っ越しされ、また、別の地に移り住むため離れて行き、退会を余儀なくされて現在は10名位です。

会員が少なくなりつつもこの会は月1回開催を続けてきて活動内容も安定し、会員も近隣地域

住民として落ち着いた生活を送るようになったので、この4月より自主サークル地域サロンとして生まれ変わり活動することになりました。以前石巻に住んでいて、自宅を開放し「元気ハウスはなまる会」を運営していた城間さんが代表となり、気仙沼、女川、福島や名取等で被災し、縁あってこの地に移り住んでいる方々が中心となり、地域の方誰でもが参加出来る会にしたいと話し合いました。

名前も「絆サロン」と改め、会費を100円徴収することになりました。開催場所、時間、曜日は今までと変わりません。今後は、会員同士で色々とアイデアをだしながら企画し、実行し、新しい地で絆を深めながら、これからの生活の楽しみの一つとなるサロン活動にしていきたいと発進しました。



三重県より震災支援差し入れのミカンを手

平成30年度介護報酬改定の主な事項について

宮城県保健福祉部
長寿社会政策課課長補佐

中野誠司氏



平成30年度介護報酬改定は、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、国民1人ひとりが状態に応じた適切なサービスが受けられるよう、

- 1、地域包括ケアシステムの推進
- 2、自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現
- 3、多様な人材の確保と生産性の向上
- 4、介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保

の4つの視点を踏まえて改定され、改定率は全体でプラス0.54%となった。平成27年度の改定率は、全体でマイナス2.27%であった。

主な介護報酬改定内容は、ターミナルケアや看取りがますます重視され、たんの吸引などのケアの提供に対する評価を創設、医療提供施設を退院・退所して入居する際の医療提供施設との連携等に対する評価を創設、ターミナル期に頻回に利用者の状態変化の把握等を行い、主治の医師等や居宅サービス事業者へ情報提供するケアマネ事業所に対する評価を設ける等、医療ニーズへの対応やターミナルケアを実施する施設等に対して、医療連携体制加算や看取り介護加算、看護体制強化加算等が手厚く改定された。

又、認知症介護について、看護職員を手厚く配置しているグループホームに対する評価を創設、どのサービスでも認知症の方に適切なサービスが提供されるように、認知症高齢者への専門的なケアを評価する加算や、若年性認知症の方の受け入れを評価する加算について、現在加算が設けられていないショートステイサービス等にも創設、若年性認知症の人やその家族に対する支援を促進する観点から、若年性認知症の人を受け入れ、本人やその家族の希望を踏まえた介護サービスを提供することについて評価を行うなど認知症の人への対応が強化された。

◆5月18日仙台市生涯学習支援センターにおいて、会員50名参加し、宮城県保健福祉部長寿社会政策課課長補佐中野誠司氏を迎え、「平成30年度介護報酬改定について」をテーマにした講演会が開催されました。

自立支援・重度化防止を進めるため、訪問介護では、排泄や入浴支援等の身体介護の基本報酬を引き上げ、家事等の生活援助の基本報酬を引き下げ、身体介護に重点をおいた改定となった。

又、利用回数が多い生活援助を位置づける場合には、市町村にケアプランの届出義務化とケアプランを検証する仕組み等が設けられた。通所介護では、食事、入浴、歩行等の日常生活動作（ADL）の維持、又は改善の度合いが一定水準を超えた場合に評価するADL維持等加算が新設される等の改定が行われた。

さらに、多様な人材の確保と業務の効率化等を図る観点から、訪問介護事業所の人材を確保するため、生活援助が出来る訪問介護ヘルパーの資格要件短時間の新しい研修カリキュラムが創設すること、特別養護老人ホーム等の夜勤について見守り機器（介護ロボット）の導入やリハビリテーション会議への医師の参加についても、テレビ電話等の活用することなどの改定が行われた。

また、サービス提供時間区分変更等により、通所介護、通所リハビリテーション、介護予防訪問看護、訪問介護の生活援助中心型等の基本報酬は引き下げられた。

平成30年度の介護報酬改定は、診療報酬と同時改定であり、医療と介護の連携や自立支援・重度化防止の推進等に重点を置いた改定となっている。



講演後、質疑応答があり、「介護職員人材確保や離職が多い状況等」の質問に対し、「県や福祉関係団体で構成する県介護人材確保協議会の主催で、県庁で県知事等関係者が出席し、県内の介護施設に就職した新人職員を激励する合同入職式を行う等、人材確保と離職防止等に取組んでいる」旨の説明があった。

*** 理事会模様 ***

◆平成30年度 第1・2回理事会

★平成30年4月24日(火)に第1回、5月9日(水)に第2回理事会が仙台市生涯学習支援センターにおいて開催されました

主な活動報告、審議事項は次のとおり

- 1) 第17回通常総会議事の進め方・役割分担について
- 2) 第17回通常総会議案書(案)について
- 3) 「介護サービス情報の公表」の仙台市への指定調査機関指定申請書の提出について
- 4) 2018年組織・活動図(案)について
- 5) 諸会費、研修会などの参加状況と今後の計画について
- 6) 広報、財政、組織、総務関係について
- 7) その他

(※詳細については事務局備付けの議事録を閲覧願います)

『地域支え合い推進委員会』だより

★平成30年6月5日(火) 一万人事務所に於いて第1回委員会を開催しました。

◆特養「ハートケア鶴ヶ谷」対応について
・地域交流ホールを活用した地域交流会やイベント開催等について、訪問し意見交換を行う予定です。

◆他団体との関わりについて
・榴岡地域包括支援センターとは、昨年までサロン開催の協力を行ってきており、今年はセンター側のニーズを伺いどのような関わりを行っていくのか引き続き検討する。

◆相談センターについて
・総会で承認された「相談センター」について、具体的な取り組みについては次回以降審議する。

【相談センターのイメージ】

何か地域でボランティア活動をしたい、特技を活かして活動したいのだがどうすればいいかわからない等、今後益々増大する当会の理念に基づく地域支え合い活動、生活支援活動に係る相談窓口。

◆その他
・地域支え合い活動に関わる「ボランティア保険」について加入する方向で調査、検討する。

◆よろず相談会◆のご案内

平成30年7月から平成30年10月までの開催日程は次のとおりです

☆開催日程(30年7月~30年10月)

- ❖ 7月19日(木) 相談役 安田廣治司法書士
- ❖ 8月22日(水) 相談役 武田貴志弁護士
- ❖ 9月19日(水) 相談役 安田廣治司法書士
- ❖ 10月23日(火) 相談役 武田貴志弁護士

フォローアップ研修会模様

◆第三者評価調査フォローアップ研修

★平成30年4月11日(水)に仙台市生涯学習支援センターにおいて開催されました

研修内容は次のとおり

- 1) 宮城県福祉サービス第三者評価基準の改正について
- 2) 保育所の評価の特徴と保育所評価基準の理解
- 3) 福祉サービスの第三者評価の受け方・活かし方
 - ①第三者評価調査判断基準について
 - ②第三者評価調査結果票への記入について



◆第1回地域密着型サービス外部評価フォローアップ研修会

★平成30年6月15日(金)に仙台市生涯学習支援センターにおいて開催され、講師に「グループホームゆうゆう・多賀城」の管理者松本裕子氏を迎え、「現場で作る介護計画書について」の講話の後、①県アンケート結果について、②調査報告書の「記入語句事例について」③その他・事務局より

以上についてのフォローアップ研修が行われました



**** お知らせ ****
事務局の夏休みは8月13日~16日までです



日本一周ひとり旅 会員 本田 裕子

以前からいつかは実現してみたいと思いつつ、実行する勇気がなく出来な
いでいました。

昨年、友人と三人で千畳敷カール
に行こうと予定を立てたが、それぞれ
仕事の都合がつかず断念。どうしても
行って観たかったので思い切って一人旅
を実行。

千畳敷カールとついでに前から行きた
かった高尾山を巡る二泊三日のロー
カル線一人旅を実行。

意外と思つた以上に楽しい旅になった。
今年には京都と箱根を巡り、京都では
もしもツアーのみやぞん・ウド鈴木と
遭遇ラッキーでした。満開の桜を想定
してスケジュールを組んだのに、今年
は例年より十日以上も早いということ
で、八十パーセントぐらい散つていま
した。しだれ桜はまだ咲いていてとて
綺麗でした。

京都はバス移動より歩いたほうが早い
ので、連日相当なキロ数を歩きました。

地元の人に教えてもらったり又、高校生中
学生に道案内してもらったり、スマホのナビに
もだいぶ助けられ充実した旅が出来まし
た。

京都は秋と又春と季節を変えて、今回
行けなかつた所を回りたいと思つています。
次回は北海道一周へ行こうと只今計画
中……

三十年も前に車で一周して以来の旅で
す。列車移動ではだいぶ制限されますが、ロ
ーカル線に揺られてのんびり楽しみたいな
あ。旭川では旭岳に登ってみようかな？
色々考えてはスケジュール作りから旅を楽
しんでいます。

仕事 孫のお世話 ボランテニア活動と健康
で楽しい人生をハッピーに過ごしたい!!

「めざせ日本一周ローカル線の旅」
「一歩踏み出す勇気があればなんでも出
来る」これからも色々な事にチャレンジして
行きます。

【編集後記】

梅雨の候、紫陽花が咲き始めま
した。第17回通常総会は、初の
試みで講演会との2部構成で開
催されました。

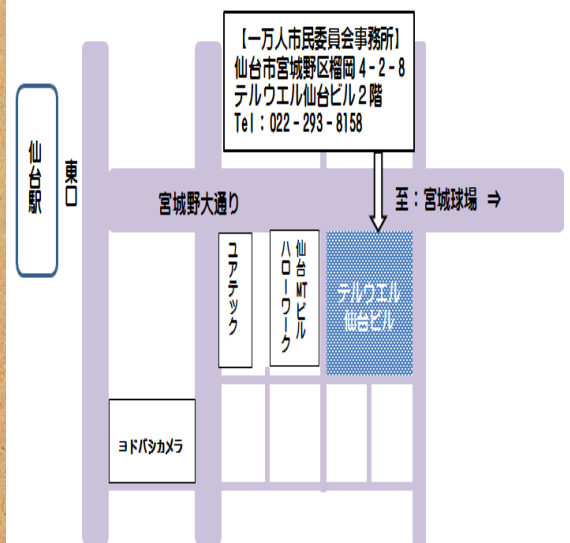
第1部に大坂純氏の「自分らしく
暮らし続けるための地域づくり」
と題された講演がありました。実
例を交えながらの分かりやすい
話に全員聞き入っておりました。
人と人との繋がりを切らない
よう社会参加の大切さを学び
ました。お忙し中、ありがとうございました。

第2部の総会は議案書を基に、

審議を終え滞りなく閉会しまし
た。今年も6名のご来賓の方々
が出席され祝辞を頂き、ありが
うございました。今年度も新事
業計画の基、活動が始まりました。
会員の皆様、互いに体に気を付
け頑張ってください。

編集委員に、阿部洋子さん大坪
俊男さんが新しく加わりました。
これからも、楽しく読んでもら
えるニュースレターをお届けし
たいと思います。皆様のご協力
よろしくお願いいたします。

(前田)



特定非営利活動法人
介護の社会化を進める
市民委員会
一人市民委員会宮城県民の会
〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウエル仙台ビル2階
Tel:022-293-8158 Fax:022-293-8230
ホームページ: <http://www.ichimannin.com>
Email: ichimannin@alpha.ocn.ne.jp

編集委員 荒井 勝子 阿部 洋子 大坪 俊男
兼平 幸雄 前田 泰子